

家族に届けたい「食の安全・安心」を

# ヨコレイ NOTE VOL.13

第67期報告書

(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

社長インタビュー・財務ハイライト P1

新中期経営計画 P4

営業の概況・事業別の概況 P5

連結財務諸表(要約) P6

News & Topics P7

CSRの取り組み(環境活動) P9

会社情報 P10



## 持続的な企業価値向上にむけ、安定した着実な成長を目指してまいります。



まず、当期(第67期)の業績全般についてお聞かせください。

冷蔵倉庫事業の堅調と食品販売事業の回復により、増収および営業利益・経常利益の増益を果たしました。

当期は、第4次中期経営計画「Step Toward the Future」(3ヵ年)の最終年度を迎え、そのテーマである「成長に向けての脱皮」を果たすべく、「コア事業の強化」と「成長力の強化」の総仕上げを行い、計画目標の達成を目指しました。

主な動きとして、冷蔵倉庫事業は前期までの高在庫状

態が解消され、在庫水準が平常化する中で、期中に3つの新物流センターを竣工・稼働させました。食品販売事業は、主力商材が高値推移する厳しい相場環境に置かれていましたが、慎重な買付と適正在庫を維持する販売方針を徹底し、前期に引き続き業績を回復させていきました。

その結果、当期の連結業績は、売上高1,416億54百万円(前期比19.3%増)、営業利益41億5百万円(同10.1%増)、経常利益41億2百万円(同7.8%増)、当期純利益18億35百万円(同20.5%減)となり、増収および営業利益・経常利益の増益を果たしました。当期純利益の減少は、一部不採算ビジネスからの撤退決定に伴う減損損失6億20百万円を計上したことによるものです。

### 財務ハイライト

#### ごあいさつ

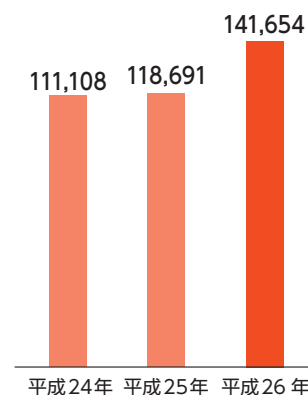
株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに第67期(平成25年10月1日~平成26年9月30日)における営業の成果をご報告し、今後の成長に向けた取り組みについてご説明させていただきます。

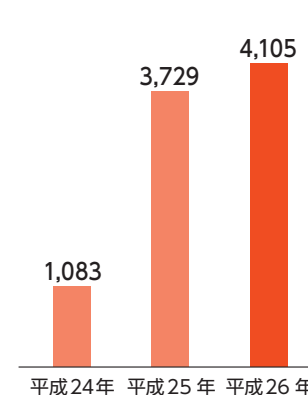
平成26年12月

代表取締役社長 **吉川 俊雄**

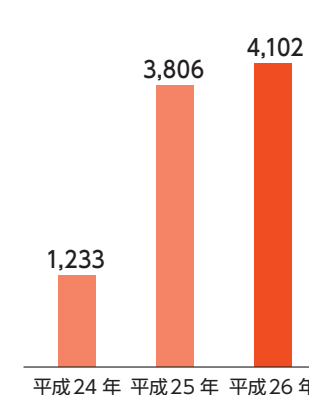
売上高 (百万円)



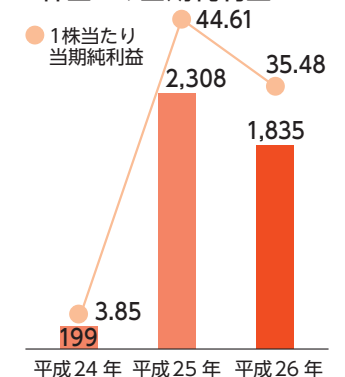
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



当期純利益(百万円) / 1株当たり当期純利益(円)





## この1年間の営業状況を振り返り、 事業別にご説明願います。

### 各事業とも売上を拡大。利益面では新拠点に関わる 費用増と電力コストの上昇が減少要因となりました。

冷蔵倉庫事業の状況から述べますと、上期は景気の回復を受けて荷動きが活発化し、好調に推移していましたが、夏場以降は国内全体に人手不足や資材の高騰、円安等による景気の足踏み傾向が表れ、在庫の回転も鈍ってきました。特に円安と中国産鶏肉問題による影響が大きく、水産物も世界的な不漁により搬入量が落ちました。

そうした中で当期は、近年注力している「物流アウトソーシングサービス」が全拠点に定着し、期初に設置した「物流通関部」による通関収入の増加とともに、売上拡大に大きく貢献しました。また、タイヨコレイ(株)などによるタイ事業も、現地の低温物流ニーズを捉えて順調に伸び、連結業績に寄与しました。

また、タイ国・ワンノイ物流センター2号棟、石狩第二物流センター、夢洲物流センターの3つが期中に竣工し、いずれも好スタートを切りました。ただし、新拠点による本格的な業績寄与は今期以降で、当期は立ち上がりの諸経費や減価償却費などが、利益の減少要因となりました。

その他に費用面では、電力コストの上昇も大きく、前期比で約2億円の増加により利益を圧迫しました。

その結果、冷蔵倉庫事業の業績は、前期比で増収増益となったものの、計画に対して売上高は若干届かず、利益も9割強の達成にとどまりました。

一方、食品販売事業は、前々期からの相場損に対する反省を踏まえ、思惑在庫や先物取引を排除し、相場損リスクを回避する在庫管理を徹底していきました。

営業状況としては、水産品において一部商材に下落の兆候が表れたものの、堅実な仕入・販売により増収増益を遂げ、畜産品、農産品も増収増益となりました。

その結果、食品販売事業全体では、増収とともに利益改善を果たし、計画に対して売上高は上回りましたが、利益は9割強の達成となりました。



## 終了した第4次中期経営計画について 総括をお聞かせください。

### 「コア事業の強化」と「成長力の強化」を基本戦略と する取り組みは概ね良好な成果と捉えています。

平成24年9月期から始動した第4次中期経営計画[Step Toward the Future]では、冒頭に申し上げた通り「成長に向けての脱皮」をテーマに、「コア事業の強化」と「成長力の強化」を基本戦略とする取り組みを進めました。

計画目標として掲げた売上高1,300億円、営業利益・経常利益45億円については、売上高において大きく上回りながらも、利益は未達となりました。しかし、拠点機能を拡充すべく予定以上の設備投資を実行したこと、食品販売事業においても組織改革による体制整備を果たしたことを踏まえ、概ね良好な成果と捉えています。

反省点としては、食品販売に関するリスクコントロールについて、確実に遂行できる体制の必要性を感じました。この点については、後でご説明する第5次中期経営計画の策定において、大きく考慮しています。また、冷蔵倉庫の新設については、業務的には成功していますが、用地の手当てや稼働時期をめぐって計画通りの投資が難しい面もあり、今後は財務バランス面での負荷をより見極めつつ、設備投資を実行していくべきと考えています。



## では、新たに始動する第5次中期経営計画 の概要をご説明願います。

### 持続的な企業価値向上にむけ、基盤整備から育成 と収穫に向けた質的充実シフトします。

第4次中期経営計画[Step Toward the Future]の成果と反省を踏まえ、当社は第5次中期経営計画[Flap The Wings 2017]を策定、始動しました。計画期間は、平成27年9月期から平成29年9月期までの3ヵ年です。

「Flap The Wings 2017」は、『安定的で着実な成長』を目指しています。将来への種まきとして進めてきた基盤整備段階から、育成と収穫に向けた質的充実段階にシフトし、安定的で着実な成長を目指します。当社は、過去3年間で約13万トンの冷蔵倉庫の設備増強を行ってきました。今後3年間で各新規設備の稼働を軌道に乗せ、投資による「実り」を確実に刈り取っていく考えです。

これを実現するための全社方針として「当社が培ってきた強み・経営資源を最大限活用し、『ヨコレイならではの質の高いサービスを提供する』ことで、お客様とのWin-Winの



関係構築・パートナーシップの強化を図る]を掲げました。

定量目標は、計画最終年度の平成29年9月期の連結業績において、売上高1,500億円、営業利益および経常利益57億円、当期純利益32億円の達成を目指します。これにより営業利益・経常利益は、当期実績に対して約40%の成長となり、自己資本利益率(ROE)は、現在の3.2%から5.1%に上昇します。また、新たにEBITDA100億円、自己資本比率52.0%を目標に加えます。

### Q 第5次中期経営計画では各事業の目標・方針をどのように定めていますか？

冷蔵倉庫事業は品質・サービスと営業力を強化。  
食品販売事業は「取組商売」を徹底していきます。

冷蔵倉庫事業では、「クールネットワークのリーディングカンパニー」を目指す姿とし、低温物流における業界No.1の保管品質を追求しつつ、物流アウトソーシングサービスをはじめとする付帯事業を一層強化していくことで、お客様(荷主)に求められるサービスを提供していきます。

計画期間中の物流拠点の拡充は、この10月に竣工した都城第二物流センターに加えて、あと1ヵ所程度の新設計画にとどめ、設備投資を一段落させるつもりです。

またタイヨコレイ(株)も、平成27年7月に予定しているバンパコン第2物流センター(仮称)のオープンにより、タイ国

トップシェアを盤石にする約10万トンの庫腹量を確保し、設備投資が一巡します。今後は営業力の強化を図り、競争を勝ち抜くことで収益を拡大していきます。

冷蔵倉庫事業の定量目標は、計画最終年度における売上高258億円、営業利益57.8億円を掲げています。

そして食品販売事業では、中期方針として「安定的な収益確立のため、取組商売を徹底」を掲げました。「取組商売」とは、仕入先・販売先との関係を確実な仕組みとした上で取引を行うもので、これを徹底することによってリスクコントロールを強化し、同時に、強みのある商材の充実に努め、全社展開していきます。

食品販売事業の定量目標は、計画最終年度における売上高1,242億円、営業利益19.2億円を掲げています。

### Q 今期(第68期)の見通しはいかがでしょうか？

新物流センターによる収益貢献などを見込み、増収増益を予想しています。

計画初年度としての滑り出しは、今のところ冷蔵倉庫事業・食品販売事業ともに堅調を示しています。ただし荷動きの状況は、夏場以降の停滞傾向が続いており、この年末年始にかけて消費動向がどう変化するか、注視していく必要があります。

冷蔵倉庫事業は今後、保管品質No.1の追求と荷主ニーズへの的確な対応に向けて、従業員の意識変革を全社に浸透させていきます。食品販売事業においても、地域拠点の裁量強化と経営責任への自覚を促すべく、今年11月に事業本部の組織改編を実施しました。

今期の連結業績は、当期にオープンした3つの物流セン

ターが通年で収益貢献し、10月から稼働した都城第二物流センターも初年度から黒字が見込まれることなどを踏まえ、売上高1,436億30百万円(当期比1.4%増)、営業利益44億円(当期比7.2%増)、経常利益42億60百万円(当期比3.8%増)、当期純利益25億円(当期比36.2%増)と予想しています。

### Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

「Flap The Wings 2017」に掲げた目標を着実に達成し、皆様のご期待に応えてまいります。

この度の期末配当は、予定通り1株当たり10円を実施し、中間配当と合わせた年間配当額を同20円(前期同額)とさせていただきます。これにより当期の配当性向は56.4%となりました。また、今期の配当につきましても、当期同額を予定しています。

当社は、株主の皆様への利益還元について、配当性向40%を下限とする安定配当の確実な継続を基本方針としております。新中期経営計画下においても、当面はこの方針を原則的に維持していく考えでおります。

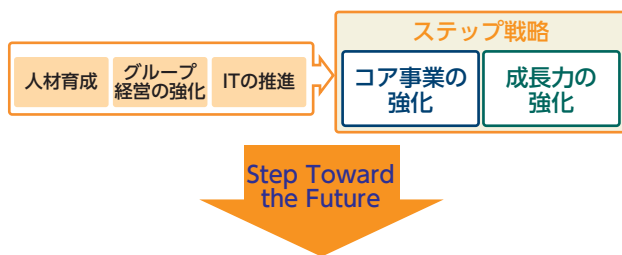
今後3年間の取り組みを通して、「Flap The Wings 2017」に掲げた目標を着実に達成していくことで、当社は株主の皆様のご期待に応え、広く世の中に貢献してまいります。同時に、社会的貢献の一環と考える事業拠点の環境保全・省エネ対応や、「食の安全・安心」を守るためのセキュリティ強化にも万全を期し、すべての皆様に信頼していただける企業を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き長期にわたるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 第4次中期経営計画の成果

### 基本方針

本中計の実現に向けて、コア事業の強化と成長力の強化を推進し、未来永劫成長を続け、存続する企業となるための事業モデルの礎を築きあげる。



持続的な企業価値向上の実現

### 定量実績

(単位：億円)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年 (目標数値)
売上高	1,240	1,111	1,186	1,416 (1,300)
営業利益	41	10	37	41 (45)
経常利益	42	12	38	41 (45)
当期純利益	16	1	23	18 (25)
R O E	3.0%	0.4%	4.1%	3.2% (4%台)
配当性向	62.0%	520.0%	44.8%	56.4% (40%以上)

## 第5次中期経営計画 「Flap The Wings 2017」

《平成27年9月期～平成29年9月期》

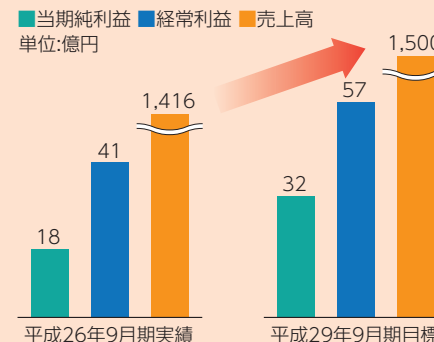
第4次中期経営計画で築いた事業モデルの礎をベースに、さらなる質の向上をはかり、安定的で着実な成長を目指します。

### 全社方針

当社が培ってきた強み・経営資源を最大限活用し、『ヨコレイならではの質の高いサービスを提供する』ことで、お客様とのWin-Winの関係構築・パートナーシップの強化を図る。

### 定量目標 (最終年度連結業績)

	平成29年9月期
売上高	1,500億円
営業利益	57億円
経常利益	57億円
当期純利益	32億円
自己資本利益率 (ROE)	5.1%
配当性向	40%以上
EBITDA	100億円
自己資本比率	52.0%



### 冷蔵倉庫事業

#### ● 目指す姿

クールネットワークのリーディングカンパニー

#### ● 中期方針

保管・物流拠点化、ネットワーク化を進めることで顧客に最適物流を提供する

#### ● 定量目標 (最終年度連結業績)

売上高 **258** 億円      営業利益 **57.8** 億円

### 食品販売事業

#### ● 目指す姿

安定的な利益追求を基本としながらも、強みのある商材を全社的に展開

#### ● 中期方針

安定的な収益確立のため取組商売を徹底する

#### ● 定量目標 (最終年度連結業績)

売上高 **1,242** 億円      営業利益 **19.2** 億円

# 営業の概況・事業別の概況

## 営業の概況

### 当期の概況

冷蔵倉庫事業は在庫水準が平常化。食品販売事業は慎重な買付と適正在庫の維持により回復基調。全体では予想を上回る増収を果たすも、営業利益・経常利益の増加は目標未達。

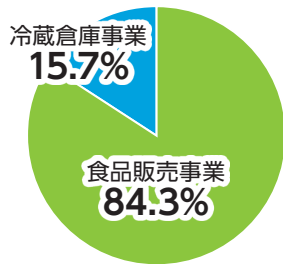
竣工した新物流センター3カ所は順調ながら、稼働初年度につき、諸経費や減価償却費の増加が利益圧迫要因として影響。

連結子会社において非採算化していた台湾の鰻共同養殖ビジネスからの撤退を決定し、減損損失として620百万円を計上。

### 事業別売上高構成比

当期（平成26年9月期）  
売上高合計

**141,654百万円**



### 今期の見通しと業績予想

10月1日より第5次中期経営計画「Flap The Wings 2017」を始動しました。前計画で築いた事業モデルの礎をベースに、さらなる質の向上を図り、安定的で着実な成長を目指します。計画初年度となる今期の連結業績については、新物流センターによる収益貢献などを見込み、以下の通り増収増益を予想します。

売上高	1,436億3千万円
営業利益	44億円
経常利益	42億6千万円
当期純利益	25億円
1株当たり当期純利益	48円31銭

## 事業別の概況

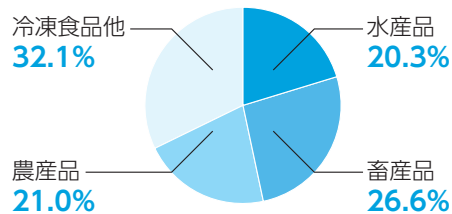
### 冷蔵倉庫事業

円安と原料貨物高騰の影響により輸入貨物が減少し、国内貨物が補う形で推移。在庫取扱量は前期比で約24千トン、出庫取扱量は約13千トン増加。平均保管在庫量は1.5%増。

物流アウトソーシングサービスが定着。新設した物流関連部も通関収入の増加とともに収益機会を拡大し、業績に寄与。

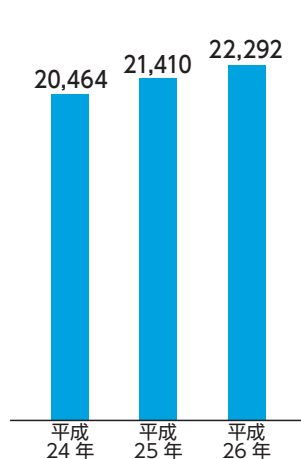
当事業の業績は、売上高22,292百万円(前期比4.1%増)、営業利益4,792百万円(同0.8%増)の増収増益。

### 当期在庫量品目別割合



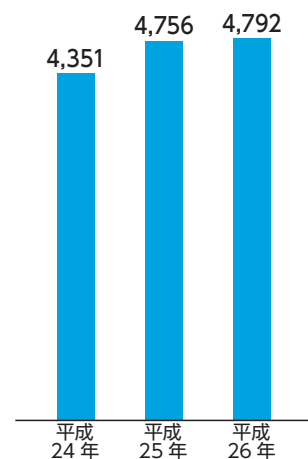
### 売上高

(百万円)



### 営業利益

(百万円)



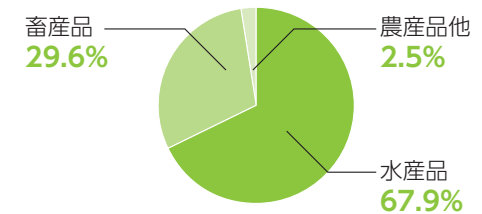
### 食品販売事業

水産品は、エビと鮭鱒類が売上を拡大させたものの、利益率が低下し減益。ホタテは取扱量を増加させ、増収増益。

畜産品は、回転率重視の販売を進める中、価格高騰のポークが取扱量を大幅に増加させ、業績を牽引。農産品は、主力商材の馬鈴薯と玉葱の利益率が改善。いずれも増収増益。

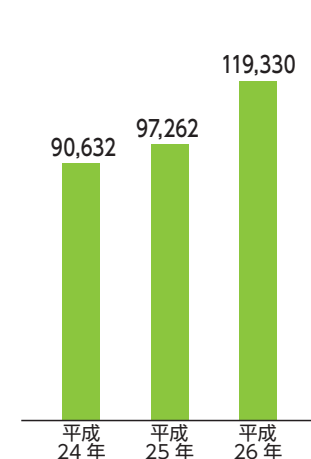
当事業の業績は、売上高119,330百万円(前期比22.7%増)、営業利益1,285百万円(同78.3%増)の増収増益。

### 当期品目別売上高構成比



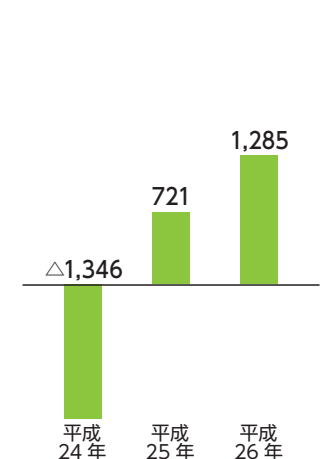
### 売上高

(百万円)



### 営業利益

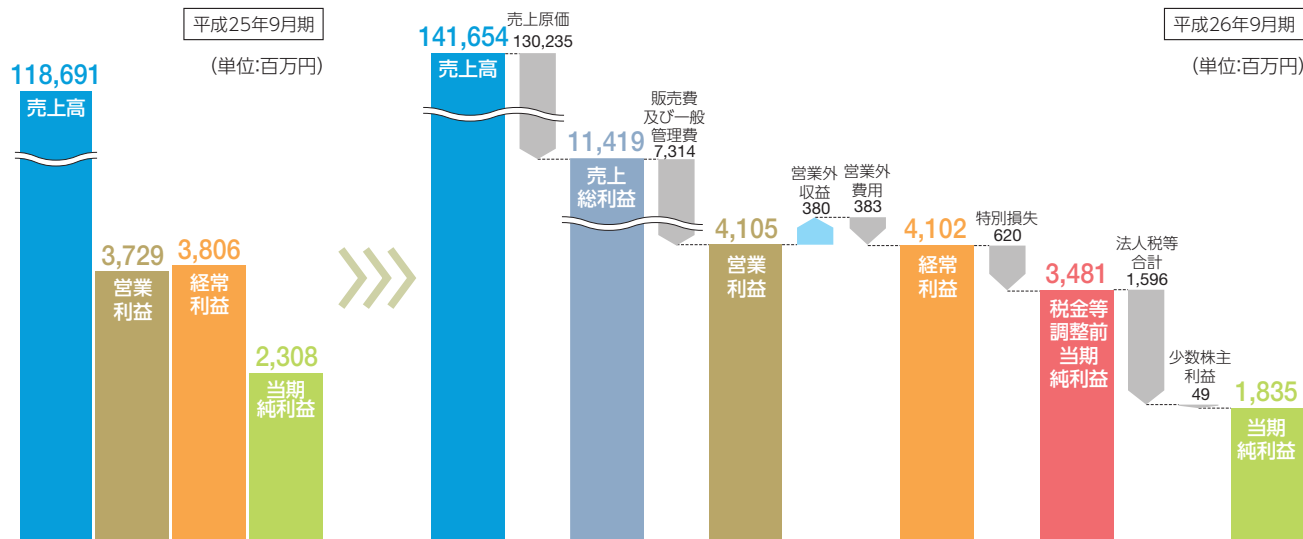
(百万円)



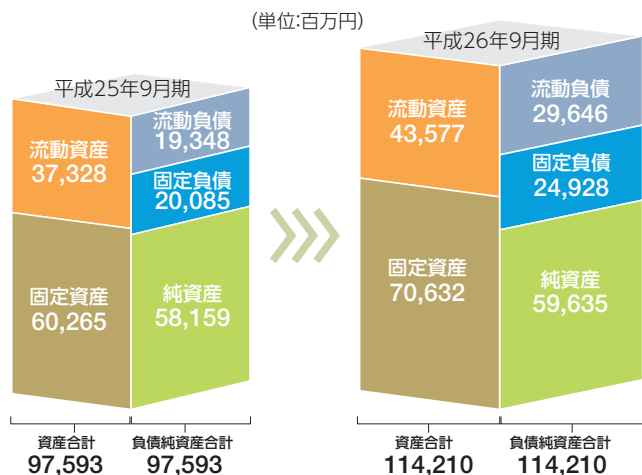
# 連結財務諸表(要約)

## 連結財務状況

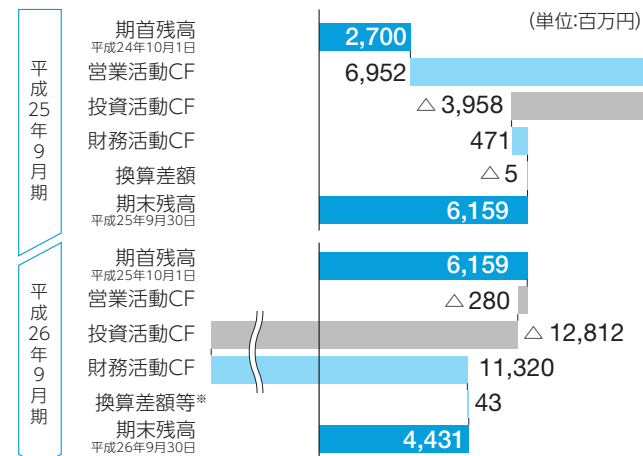
### ◆ 損益の状況



### ◆ 資産・負債・純資産の状況



### ◆ キャッシュ・フローの状況



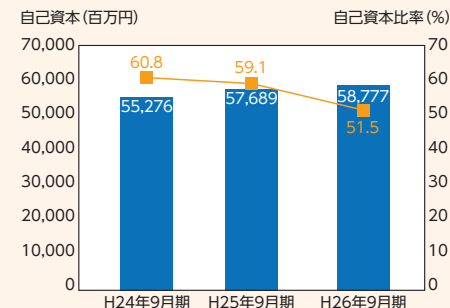
※ 換算差額 + 連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額



## もっとくわしく!

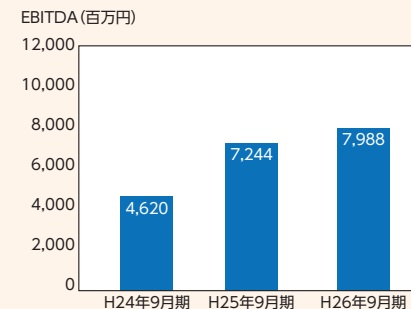
### POINT 1 自己資本の変化に注目

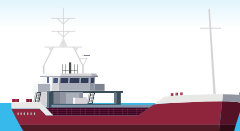
借入金の増加により、当期の自己資本比率は低下しましたが、自己資本そのものは着実に増加しています。新中期経営計画では3年後の自己資本比率について52.0%を目標に掲げました。今後の変化にご注目ください。



### POINT 2 EBITDA100億円に向けて

営業利益に減価償却費を加算したEBITDAは、国ごとに異なる会計基準や税率、金利の影響を抑えた形で企業の収益力を比較する際に用いられます。新中期経営計画では3年後にEBITDA100億円を目指します。





### 冷蔵倉庫事業

#### ■ 都城第二物流センター着工

宮崎県都城市高木町の都城物流センター隣接地で、同第二物流センターの建設を開始。1年後に竣工しました。荷役作業を可能な限り機械化し、機能を地域の商品特性に適合させた最新鋭の低温物流施設です。

#### ■ 物流通関部を設置

物流アウトソーシングニーズの高まりに対応し、通関業務の拡大を進めるべく、冷蔵事業本部内に物流通関部を新設しました。通関サービスと合わせ、保管・配送まで一貫対応する最適物流を提案します。




### 冷蔵倉庫事業

#### ■ 海外視察団の相次ぐ冷蔵倉庫施設見学

2月のバングラディッシュをはじめ、9月には台湾、10月にはベトナムやミャンマーなどといった各国の視察団が相次いで冷蔵倉庫の見学に来訪しました。視察後は、国内最先端の低温物流施設を中心に大変活発な質疑が交わされました。



### 冷蔵倉庫事業

#### ■ 夢洲物流センター竣工


大阪府大阪市此花区の経済特区・夢洲地区に夢洲物流センターを新設しました。屋上に設置した630kwの太陽光発電システムをはじめ、環境に優しい最先端技術を多数導入した近未来型物流センターです。



### 冷蔵倉庫事業

#### ■ フードディフェンス対応の強化

食の安全・安心を守る「フードディフェンス」対応の一環として、各事業所に防犯カメラとICカード入退館管理システムを導入しました。ルール運用の徹底、教育の充実とともに万全を期してまいります。




### 冷蔵倉庫事業

#### ■ 川辺ソーティングスポットが稼働

農畜水産品の生産が盛んな薩摩半島に立地する川辺物流センターの増築棟として稼働を開始した川辺ソーティングスポットでは、保管・凍結機能に加え、選別作業など付帯サービスの提供機能を完備。生産地特有の物流ニーズに応えています。



### 冷蔵倉庫事業

#### ■ ワンノイ物流センター2号棟竣工

タイ国・ワンノイ物流センターの隣接地に2号棟を新設しました。冷蔵倉庫は同国最大規模の庫容量2万7,300トンを誇り、電動式移動ラックや垂直搬送機など、国内拠点と同様の最新設備を導入しています。



### 冷蔵倉庫事業

#### ■ バンパコン第2物流センター(仮称)着工

タイ国・バンパコン物流センター敷地内で同第2物流センター(仮称)の建設を開始しました。竣工は2015年7月の予定です。今後一層の拡大が見込める同国の低温物流ニーズを積極的に取り込んでいきます。



### 冷蔵倉庫事業

#### ■ 石狩第二物流センター竣工


北海道小樽市銭函の石狩物流センター隣接地に同第二物流センターが完成しました。「高い品質管理」「環境にやさしい冷蔵倉庫」「最適な保管環境の提供」という3つのコンセプトで多様なニーズに応えます。



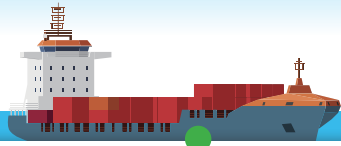
### 食品販売事業

#### ■ ブルネイ産ブルーシュリンプを販売

甘みとうま味が強いブルネイ産ブルーシュリンプ「葵の煌き(あおのきらめき)」の独占販売を本格化しました。抗生物質を使用せず、品質管理にこだわった養殖エビで、シーフードショーへも出展しました。







## A 「葵の煌き」の本格販売化

### ブルーシュリンプ<sup>あお きらめ</sup>「葵の煌き」を完全独占販売

ブルネイ産ブルーシュリンプ「葵の煌き」は、当社が日本で独占販売する養殖エビです。

生産は親エビから最終製品まで一元管理し、餌は抗生物質を一切使っていない天然原料飼料を使用するなど、品質管理と安全・安心の確保を徹底。池揚げ後は、活締めされた状態で素早く加工・パッキングすることで、生食も可能な鮮度の高さを維持しており、8月に開催されたジャパン・インターナショナル・シーフードショーでは、来場者アンケート第6位(商社部門)を獲得しました。

うま味成分「グルタミン酸」や甘み成分「グリシン」が、他種より多く、刺身や天ぷら、フライにしてもエビのおいしさを存分に味わえます。

寿司店や飲食店など業務筋を中心に、量販店にも対応し、全国各地に販路を拡大していきます。



## B 安全・安心への取り組み

### セキュリティ設備とルール運用、教育等による強固なフードディフェンス対応

最近の食品業界では食の安全をおびやかす事件等が発生しており、当社はお客様からお預かりした貨物のセキュリティ管理を従来以上に徹底し、食の安全・安心を守る「フードディフェンス」対応の強化を図っています。

設備面では、全43事業所の全てのフロアに防犯カメラを設置し、施設内および周辺における異常検知の精度を高めました。また、39事業所にはICカードを利用した入退館管理システムを導入し、施設の出入り制限を厳格化しました。

同時に、入退館や施錠管理に関するルール運用を明確に規定。さらに「フードディフェンス」に関する教育を実施し、社員の意識を高めています。



## C 夢洲物流センター竣工

### 環境に優しい最先端の技術を集約した革新的物流拠点「夢洲物流センター」

当社は近年、物流拠点の拡充に向けて設備投資を強化し、時代の先を行く機能とデザインを備えた今までにないタイプの冷蔵倉庫を設置してきました。

東京一極集中からの分散化ニーズに応えるべく、経済特区である夢洲地区への民間進出第一号となった夢洲物流センターは、さらに革新的な物流拠点として、環境・省エネ機能を中心に最先端技術を集約しています。

総額46億円を投資した本施設では、業界最大規模となる630kwの太陽光発電システムが稼働。自社利用の他、営業冷蔵庫として初の売電も行います。またプラットフォームには、高度な品質管理を可能にするハイブリッドデシカント陽圧方式を導入しました。



## 地球環境に配慮した事業運営

ヨコレイは物流事業を通じて社会に貢献するという企業理念の下、地球環境に配慮した事業運営を行い社会から一層信頼される企業を目指します。

### 太陽光発電システム

太陽電池モジュールにより、太陽光を直接電気に変換し、電力として使用しています。原油などを使った発電方法に比べ、発電時に廃棄物・排水・排気・騒音・振動が発生せず、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減に貢献しています。

全国9拠点に導入されており、業界最大級の太陽光パネルを設置した夢洲物流センターでは、この電気を利用して営業冷蔵庫初となる売電も行っています。

#### 導入先

- 北港物流センター
- 鳥栖第二物流センター
- 横浜物流センター
- 加須第二物流センター 他5拠点



### ノンフロン冷凍装置

ノンフロン冷凍装置は、フロンガスの代わりに自然界に存在するアンモニア(NH<sub>3</sub>)や二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を冷媒として使用することにより、オゾン層の破壊や地球温暖化といった環境問題に対応しています。

すでに全国50%以上(収納能力換算)の設備で導入されており、ヨコレイでは、今後も環境への負荷を低減するよう努めていきます。

#### 導入先

- 川辺物流センター
- 喜茂別物流センター
- 十勝第二物流センター
- 都城物流センター 他18拠点



## 最新ECO技術が集結した ヨコレイの冷蔵設備



### 屋上緑化システム

冷蔵倉庫の屋上を緑化することで屋上の表面温度を下げ、庫内の冷却効率を高めて使用電力量の削減を図っています。設置前と比較して、夏季には屋上の表面温度や施設内の天井温度が低下するなど、高い省エネ効果が表れました。

今後も設置可能な設備へ屋上緑化システムを導入し、電力量削減を推進してまいります。

#### 導入先

- 小牧物流センター
- 伊勢原物流センター
- 鶴ヶ島物流センター



### BEMS (Building Energy Management System)

建物内における使用電力を「見える化」し、システムで適切に制御することで省エネを図っています。空調・配電・照明設備などに設置したセンサーから情報を収集し、エネルギー使用量をモニターに表示することで使用電力を可視化します。

電力の無駄や非効率を発見・改善し、設備を有効にコントロールすることで、使用電力量の削減に貢献しています。

#### 導入先

- 都城第二物流センター
- 夢洲物流センター
- 石狩第二物流センター



# 会社情報

## 会社概要 (平成26年9月30日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社

本社所在地 〒220-0012  
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号  
みなとみらいブランドセントラルタワー7階  
TEL: 045-210-0011 (代表)  
FAX: 045-210-0018

設立 昭和23年5月13日

資本金 11,065,926,625円

従業員数 連結 1,330名 単独 1,029名

業務内容 1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業  
2. 水産品の加工、販売並びに輸出入  
3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入  
4. 不動産賃貸業  
5. 通関業  
6. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業  
7. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売  
8. その他前各号に付関連する一切の事業  
(定款における事業目的)

## 役員および執行役員 (平成26年9月30日現在)

代表取締役社長	吉川 俊雄	監査役	棚橋 栄蔵
常務取締役	岩淵 文雄	監査役	西元 徹也
常務取締役	水野 隆明	上席執行役員	中西 啓文
取締役	井上 祐司	上席執行役員	大久保 孝一
取締役	千田 重賢	執行役員	岩倉 正人
取締役	飯島 敏正	執行役員	畑山 敬二
取締役	西山 敏彦	執行役員	竹村 文男
取締役	越智 孝次	執行役員	野崎 博嗣
取締役	松原 弘幸	執行役員	池田 浩人
常勤監査役	田中 明彦	執行役員	藤五 俊治
常勤監査役	阿部 博康	執行役員	花澤 幹夫

## ネットワーク (平成26年9月30日現在)

### 冷蔵倉庫事業 42拠点

**北海道ブロック**  
石狩物流センター  
石狩第二物流センター  
喜茂別物流センター  
十勝物流センター  
十勝第二物流センター

**圏央・東北ブロック**  
八戸物流センター  
気仙沼冷凍工場  
仙台物流センター  
加須物流センター  
加須第二物流センター  
鶴ヶ島物流センター  
伊勢原物流センター

**京浜ブロック**  
東京物流センター  
東京第二物流センター  
大黒物流センター  
横浜物流センター  
子安物流センター  
山内物流センター

**中京・東海ブロック**  
小牧物流センター  
名古屋物流センター  
中川物流センター  
沼津物流センター  
大井川物流センター

**阪神ブロック**  
夢洲物流センター  
北港物流センター  
西淀物流センター  
舞洲物流センター  
神戸物流センター  
六甲物流センター

**九州ブロック**  
鹿児島物流センター  
福岡物流センター  
箱崎物流センター  
鳥栖物流センター  
鳥栖第二物流センター  
唐津冷凍工場  
長崎冷凍工場  
佐世保冷凍工場  
都城物流センター  
志布志物流センター  
川辺物流センター  
枕崎冷凍工場  
山川冷凍工場

### 食品販売事業 21拠点

**北海道水産事業部**  
**東北水産事業部**  
東北水産事業部 (仙台)  
八戸営業所  
気仙沼冷凍工場

**九州水産事業部**  
九州水産事業部 (福岡)  
長崎営業所  
唐津営業所  
松浦営業所  
鹿児島営業所  
佐世保冷凍工場  
枕崎冷凍工場

**畜産事業部**  
農産事業部十勝営業所

**東京営業部**  
東京営業部  
横浜営業所  
沼津営業所

**水産原料部**  
茨城営業所  
銚子営業所  
名古屋営業部  
大阪営業部  
海外事業部

### 連結子会社

株式会社アライアンスシーフーズ  
株式会社クローバートレーディング  
Thai Yokorei Co.,Ltd. (タイ)  
ワンノイ物流センター  
ワンノイ物流センター2号棟  
バンパコン物流センター  
サムロン物流センター  
Best Cold Chain Co.,Ltd. (タイ)

### 非連結子会社

Yokorei Co., Ltd. (タイ)

## 株式の状況 (平成26年9月30日現在)

発行可能株式総数 ..... 160,000,000株

発行済株式の総数 ..... 52,450,969株

株主数 ..... 14,166名

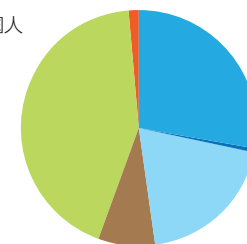
### 大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険株式会社	2,205	4.26
株式会社横浜銀行	2,176	4.20
農林中央金庫	1,473	2.84
株式会社八丁幸	1,411	2.72
横浜冷凍従業員持株会	1,173	2.26
株式会社松岡	1,034	1.99
株式会社サカタのタネ	1,022	1.97
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人シティバンク銀行株式会社)	954	1.84
横浜振興株式会社	892	1.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	889	1.71

(注) 持株比率は自己株式(704,777株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布状況

■ 金融機関 14,554千株 27.8%	■ 外国法人・外国人 4,077千株 7.8%
■ 金融商品取引業者 362千株 0.7%	■ 個人・その他 22,565千株 43.0%
■ その他の国内法人 10,186千株 19.4%	■ 自己名義 704千株 1.3%

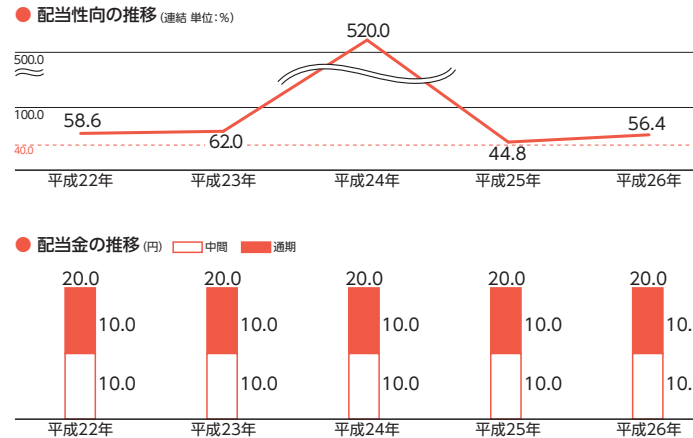


## 株主還元方針

### 配当金・配当性向

当社では、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営目標の1つとして認識し、配当性向40%以上の維持を目標とした安定配当の実現を基本方針としています。

この方針に基づき、当期の期末配当金は、1株当たり10円とし、年間配当金は20円とさせていただきます。



(1) 1,000株以上～3,000株未満 保有の株主さま

「鮭切身詰め合わせ」  
鮭切身 (約1,000g)



(2) 3,000株以上 保有の株主さま

「北海道産のホタテ・いくらセット」  
いくら醤油漬け(500g)、  
生食用ホタテ貝柱(1,000g)



### 株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日
	剰余金の期末配当 9月30日
	剰余金の中間配当 3月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
電子公告	電子公告
公告の方法	※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 <a href="http://www.yokorei.co.jp/investors/investors/electronic-public-notice/">http://www.yokorei.co.jp/investors/investors/electronic-public-notice/</a>
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所 (第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (フリーダイヤル)

#### (ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### ホームページのご紹介

▶ <http://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかるIR情報インデックスや財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツを掲載しております。また、食の安全・安心や環境、社会貢献活動などのCSRの取り組みをご紹介します。ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。

